

第4学年 社会科

この指導案は、平成24年9月に4年生の各学級で行った授業実践で使用したものです。

1. 単元名 「地震にそなえて」
2. 単元の目標 日頃から非常時に備えることの大切さを知り、災害時にどのように行動すべきかを考える。
3. 本時のねらい これから予想される震災に対する備えについて考える。
4. 防災教育としてのねらい
 - ・大震災によりライフラインが止まり、日常生活を送ることが困難になった場合に必要な物資が、地域の避難所に備えられていることを知る。
 - ・自らも地域の一員として避難訓練に参加したり、家族の一員として家庭内の備蓄物や非常用持出し袋に関心を持ったりすることの大切さに気づく。
5. 本時の指導過程

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
<p>1. 震災時の生活を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所や自宅で生活した当時の様子を振り返り、大変だったことを話し合う。 <p>2. 本時の学習課題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">地震のそなえについて考えよう</div> <p>3. 地震が起きた時の仙台市の取組を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「わたしたちのまち仙台」P66の資料から、大地震が起きた場合の仙台市の取組を読み取る。 <p>4. 避難所に備蓄されている物資について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんなものが備えられているとよいかを考える。 ・学校の備蓄倉庫で実際に確かめる。 <p>5. 日頃からできることを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「わたしたちのまち仙台」P67の資料から、自分たちが日頃からできることは何かを見つけ、発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の地区の避難場所はどこなのかを知っておくとよい。 ・非常用持出し袋を用意しておくとうい。 ・家庭でも必要なものを備蓄しておくとうい。 ・地域やマンションの防災訓練に参加していくとうい。 <p>6. 自分の家庭でできることを発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフラインが止まったことで日常生活を送ることが大変だったことを思い起こさせる。その際、震災当時の状況がフラッシュバックしないよう十分に配慮する。 ・長町小学校も避難所になったことに触れながら、災害に対応する流れを読み取らせる。 ・1で話し合った内容を想起しながら考えさせる。 ・教室に戻ったら、予想したものと実際に置かれていたものを比べながら内容を確認する。 ・指定避難場所の看板の写真を掲示し、長町小学校も指定避難所であることを確認する。 ・非常時には持出し袋や家庭内の備蓄物があると安心だということに気づかせる。 ・『家庭の備蓄物リスト』を提示し、取組への意欲を喚起する。

6. 準備物
- ・指定避難場所の看板の写真
 - ・家庭の備蓄物リスト
 - ・非常用持出し袋